

## 野崎八幡社薬師殿と薬師如来の歴史

薬師堂で祀られている薬師如来は、野崎に滞在して布教に当たっていた愛知県新城市の鳳来寺（真言宗・本尊薬師如来）の尼僧・梅風尼（梅鳳尼）によってもたらされたと伝えられています。文久3年（1863）年に薬師堂の屋根を修理した記録があることから、少なくとも150年前から祀られていることが確認できます。しかし当初から、薬師を祀っていた場所の特定は定かではありません。薬師は八幡社境内に祀られていたと伝承されていますが、江戸時代の地誌である『新編武蔵風土記稿』（文政11年1828年編纂）の野崎村の稿には、薬師、薬師堂、薬師殿の記載はありません。ただし、八幡社境内の墓地に「寮」の記載があり、共同墓地の「総佛」として、ここに六部の梅風尼が薬師を祀っていたとの解釈もあります（森岡清美1964）。

明治時代の神仏分離令により、薬師は神社当番頭の持ち回りとなりますが、関東大震災以後新築された社務所内に祀られるようになり、さらに昭和61年（1986）に新築された薬師堂に祀られています。平成21年（2009）、道路拡張に伴う八幡社の境内整備により、本殿西側に移転して現在の位置となりました。

文久三亥年  
九月  
薬師様家根職上家替帳  
野崎村